

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: Impact of ready-meal consumption during pregnancy on birth outcomes: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠中における調理済み食品の摂取頻度と妊娠帰結との関連

ユニットセンター(UC)等名: 愛知ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrients

年: 2022 DOI: 10.3390/nu14040895

筆頭著者名: 玉田 葉月

所属 UC 名: 愛知 UC

目的:

妊娠中における調理済み食品(市販の弁当、冷凍食品、レトルト食品、インスタント食品、缶詰食品)やカフェインを含む飲料(コーヒー、茶類)の摂取頻度と妊娠帰結(死産、早産、small for gestational age (SGA)、低出生体重)との関連を調べることを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した 94,062 組の親子のデータを解析対象とし、調理済み食品およびカフェインを含む飲料の摂取頻度と妊娠帰結との関連について、ロジスティック回帰分析により調整済みオッズ比を算出した。

結果:

調理済み食品のうち、市販の弁当(週1回以上)または冷凍食品(週1回以上)の摂取頻度は、妊娠12週以降の死産と関連を認めた。その他の調理済み食品(レトルト食品、インスタント食品、缶詰食品)の摂取頻度と死産は関連がなかった。また、妊娠中のカフェインを含む飲料の摂取頻度は、妊娠帰結と関連があった。特に死産については、ペットボトルや缶で販売されている飲料であっても、自身でコーヒー豆や茶葉から抽出した場合でも、摂取頻度が高いことと関連を示した。

考察(研究の限界を含める):

今回の研究で見出された調理済み食品(市販の弁当、冷凍食品)の摂取頻度と妊娠帰結の関連は、これらの食品の包装に含まれる化学物質に起因する可能性もあるが、この点は本研究で検討を行っていない。今回の研究の限界点は、このような直接の原因となる物質やメカニズムを検討することができなかった点である。今後は生体試料の分析などを行い、関連物質やメカニズムの詳細を明らかにする必要がある。また、妊娠中のカフェインを含む飲料の摂取頻度と妊娠帰結との関連は、先行研究と概ね一致するものであった。

結論:

妊娠中の調理済み食品(市販の弁当と冷凍食品)やカフェインを含む飲料の摂取頻度は妊娠帰結に関連する可能性が示された。